

常不輕菩薩の生き方に切り替えよう

【9月10月度の御金言】三惑未断の末代の凡夫、いかでか此の経の行者となるべき。設ひ日蓮一人は杖木瓦礫、悪口王難をもしのぶとも、妻子を帯せ無智の俗などは争でか叶ふべき。

【四条金吾殿御返事】(全集1163頁)

法華講信条

- 1, 謗法嚴戒の信仰を貫こう。(信心)
- 1, 行学絶へなば仏法はあるべからず。(行学)
- 1, ただ一言でも妙法を伝える勇気を持とう。(破邪顕正)
- 1, どんなことがあっても憶持不忘の信心を貫こう。
- 1, 現世利益絶対否定の信心をしよう。(示教利喜)
- 1, 成仏大願、菩提心堅固の精進をしよう。
- 1, 御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持とう。
- 1, 噂に流されない、人に媚びへつらわない自立した信心をしよう。
- 1, 妙法聞法の縁を大切に求道の信心をしよう。

1991年2月13日掲揚

☆ 現世利益絶対否定の信心をしよう。(示教利喜)

崇峻天皇御書(全1173p)に、

蔵の財よりも身の財すぐれたり身の財より心の財第一なり、此の御文を御覧あらんよりは心の財をつませ給ふべし。

との御金言があります。蔵の財とは、御金、宝石等々であります。蔵は、現在で言えば、金庫、郵便局、銀行へ預けている御金であります。月々働いて、給料を貰い、電気、水道、電話、ガス、ガソリン、家賃、ローン等々の生きていく為に必要な費用を支払って生活が成り立って行くわけですから、御金は生命であります。その月々の給料、年金の中から心懸けて、自分、家族、子供、孫等々の病気、事故、災害等々が起こった時のいざという時、即座に親、兄妹、身内、他人に援助して貰うわけにはいかないので、自助努力として、ある程度の蓄えをしておかなければなりません。

身の財とは、自分が勉強し、努力して、資格、技術等々を身に付け、その資格、技術で、一般の人が出来ない特殊な仕事をし、一般の人よりも蔵の財を得ることが出来る財です。蔵の財は、大火事や泥棒にあうことによって瞬時に無くなってしまいますが、身の財は、自分が健康で生きている限りは、どんな災害にあっても、泥棒に盗まれたり、無くなる事はありませんから、蔵の財が無くなっても、再度頑張って、蔵の財を築いて行く事が出来ますから、「身の財すぐれたり」と言うのであります。

世の中のほとんどの人々は、①の蔵の財、②の身の財が人生の目的、生きがいの全てだと考えています。宗教においても、創価学会始めとして、①②の現世利益の為に信仰をしていると教え指導しているのであります。日蓮大聖人は、③番目に、「心の財第一なり」と示され、全ての生命に、南無妙法蓮華経の仏性が具わっている事に目覚める為に生まれ信仰している事を忘れてはいけないと示されているのであります。つまり、①心の財②身の財③蔵の財の順序に、受けがたき爪上の土の稀少な生命を使わなければいけないと説か

れているのであります。「功德だ」「罰だ」の考え方も、蔵の財、身の財に執着した、本物の正しい信心では無いのであります。創価学会は出来てから 90 年経っても、現世利益こそが日蓮大聖人の教えであると固執し指導し、南無妙法蓮華経は現世利益の呪文と考え、数多く御題目を沢山唱えれば、功德が貰えると思いついでいるのであります。これでは、どれだけ南無妙法蓮華経と唱えても、日蓮大聖人の法に縁していない信心などと言えないものであります。

入信したきっかけは、心の財を理解する信仰心と知識が、まだ有りませんから、蔵の財、身の財目的でも、仕方が無いし、かまわないと思います。しかし、5年 10年 20年と信心をして来ても、蔵の財、身の財止まりの信心では、日蓮大聖人の法を信仰していることにはならないのであります。それ故に、現世利益絶対否定の信心をしよう。と、私個人の考えで無く、日蓮大聖人の教えにのっとって、法華講信条の項目にうたっているのであります。

☆ 三寶院本堂前の駐車場の奥に、三師塔と法界萬霊の供養塔が建立されています。三師塔とは、私達が信仰している日蓮大聖人の教えの源となる、正面が日蓮大聖人、向かって左が、日蓮大聖人の亡き後、日蓮大聖人の謗法厳戒の信行を貫き、身延を日目上人と共に離山し大石寺を開いた二祖日興上人。向かって右が、9年間日興上人と共に大石寺の基礎を開拓整備、堂宇建立に尽力し、日興上人が重須檀所に移った後の 35年間大石寺を守り後世に繋いだ、第三祖日目上人であります。後方の中央、ひときわ高い供養塔は、墓守の血縁者がいない御信者さんの安心の為の法界萬霊、その右下の小さな法界萬霊の供養塔は、家族同様に一緒に生活してきたペットの為のものであります。三寶院へ参詣される方は、是非、本堂に入られる前に、三師塔、法界萬霊供養塔に手を合わせ、御題目三唱をし、「日蓮大聖人御報恩謝徳、日興上人御報恩謝徳、日目上人御報恩謝徳、法界萬霊追善供養」と観念して、自分達の信仰の源点を自覚するようにして下さい。大石寺では、古来より、自分の先祖代々の御墓に御参りする時には、まず一番に三師塔に御参りしてから、先祖代々の墓に向かうという事が守られていました。これも信心の源点、何によって先祖代々の成仏が叶うのかを認識し、その功德を先祖代々に手向けるという意味なのであります。

本堂の、本尊、日蓮大聖人、日興上人の御影様も同様に、具体的な視覚を通して、信仰の源点が何かを参詣の折に触れ、何度も何度も習慣として自覚することが大切な事だと思います。御寺によっては、大石寺にも、他宗の神社仏閣にも有りますが【手水鉢】といって、御参りの前に手を洗い清め、世俗の心を洗い、信心の清浄な心に切り替えるという意味で設置している所があります。手を洗う、心を洗うという事を意識させる為であります。しかし私は、【手水鉢】よりも、具体的な三師塔、法界萬霊供養塔に御題目三唱する事によって、より強く自分達の信仰の源点は何なのを意識し、信心中心の心に切り替えて頂きたいと願っています。